

巻頭言

長岡技術科学大学
理事・副学長 丸山久一

平成 19 年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震は、中越地区に住む私たちにとっては“まさか”の地震でした。3 年前の平成 16 年 10 月 23 日に、この地区にとっては百数十年振りの大地震に襲われ、未曾有の被災からの復旧がようやく一段落した時期だったからです。地震が周期的に発生することは、誰もが知識として知っており、大きな地震は百年から二百年に一度と思いこんでいました。

地震の規模は、どちらもほぼ同様でしたが、今回の中越沖地震は震源が柏崎沖の海底であったため、被災は柏崎市を中心とした比較的限定された範囲に留まりました。震源近くの住居等の被害は前回と同様に酷いものでしたが、震源から 30～40km 離れている本学においては、幸いなことに、ほとんど被害が生じませんでした。地震の発生した日は休日でしたが、3 年前の経験が十分生かされていて、学内の連絡体制が素早く発動し、学生および教職員の安否確認、被災地への救援活動等、迅速に対応が始まりました。

その一方で、地震および地震による影響、緊急体制および復旧方法等の調査をし、今後役に立てるために、本学で調査団を結成し、活動を開始することにしました。環境・建設系の大塚教授を団長に、同系の細山田准教授を幹事として、総勢 27 名の構成員としました。団員の氏名は別表に示してあります。地盤工学や耐震工学、都市工学や環境工学を専門とする環境・建設系の教員が中心となって、地震および被災の状況の調査を担当しました。さらに、機械系、電気系、生物系、経営情報系、システム安全系からも、多くの教員が参加し、各々の専門分野の技術を通して、被災状況および被災地における救援活動等の調査をいたしました。

調査活動の中間報告は、平成 19 年 10 月 22 日に柏崎市で行いました。当日は、復旧で多忙な会田柏崎市長も参加され、大変盛況な報告会となりました。その際の報告内容をさらに充実させて完成したものが本報告書です。精力的な調査活動を行い、その内容を適切に執筆していただいた団員の皆様に感謝いたしますとともに、本報告書が今後の地震災害の対応に役立つことを希望いたします。

平成 20 年 3 月